

# 第三章 授業改善と実践報告

## <国語科> (モデル授業)

表現力を磨くための授業実践  
～アクティブ・ラーニングの視点に立った授業づくりを通して～

教諭 垣見優太

### はじめに

表現力を向上させるためには、言葉の意味を正しく捉えることや語彙数を増やすこと、また、優れた表現に触れることが重要である。しかし、最も重要なことは、自己の表現を客観的に見つめ直すことだと考える。本校生徒は日常生活において、自己の表現を見つめ直す機会が少なく、より良い表現をしようという意識が低い。そこで今回は、自己の表現を見つめ直すことに主眼を置いた授業を実践し、それが生徒の表現力向上に繋がるかを考察した。

### 1 取組の概要

#### (1) 趣旨

- ア わかりやすい表現（他者への説明）に必要な要素を知る。
- イ 自己の表現と他者の表現を比較することで表現力を向上させる。
- ウ 自己の表現を客観視し、自ら添削できるようにする。

#### (2) 対象

2年6組 39人（女子：39人）

#### (3) 計画

- ア 三省堂「明解現代文B」の教科書にある『芋ようかん』を題材とする。
- イ 読解の際に、自分の考えを文章化する機会を毎時間設定する。
- ウ グループワークを基本とし、活発に意見交換をさせる。

#### (4) 方法

- ア 授業において生徒に、個人思考 → 表現 → 協議 → 比較 → 反省という手順を踏ませる。
- イ グループワークとワークシートを使用して、上記（ア）の流れを作る。また、各班の意見を板書させ、それを全体で確認しながら、教員が適宜添削をし、良い表現と悪い表現の視覚化を図る。

### 2 研究内容

#### (1) グループワーク

##### ア 個人思考

小説において重要なことは、登場人物の心情を把握することである。授業では、文章中の表現を根拠に、登場人物の心情を説明させる（書かせる）時間を必ず設ける。人に説明できなければ理解できているとは言えないので、他者に説明することを前提にわかりやすい表現を心がけさせる。その際、他者の意見に流されることを避けるため、いきなり話し合いを行うことはせず、まずは時間を区切って一人で黙々と書かせるようにする。



## イ 話し合い（協議）→ 選出

各自答えを書き終えたところで、それをグループ内で発表させる。他者の意見を聞くことによって新たな気づきが生まれ、それが読解の深まりにつながる。全員が発表したら、その中で最もいい答えを多数決で選出させる。その際、Aさん（あるいは自分）の答えを選んだ理由も必ず全員に言わせる。選出すること（＝表現を比較すること）で、生徒はより良い表現に必要な要素（表現の正しさ・情報量・わかりやすさ等）に気づく。

## (2) 板書

### ア 教員による添削

各グループで話し合いが終わったら、選出された答えを代表者に板書させる。全グループの答えが出そろったところで、全員に黒板を見るよう指示し、教員がそれぞれの答えを添削していく。その際、観点（表現の正しさ・主述の対応・情報量等）を明確にする。その後、教員が（あるいは生徒の多数決で）最も良い答えを選ぶ。良い表現と悪い表現の視覚化を図ることで、生徒はより良い表現に必要な要素を知る。



### イ 振り返り

教員の添削方法（添削の観点）を参考に、生徒全員に自分の答えを添削させる。そこで生徒は自分の表現を見つめ直すことになり、表現力が向上する。

## (3) 評価

以下①～④は、単元（「芋ようかん」）終了後に実施したアンケート調査において、「表現力は向上したと思うか」という項目についての結果である。

- ① ② ③ ④
- |              |             |
|--------------|-------------|
| ① と思う…10人    | ② ややと思う…22人 |
| ③ あまり思わない…6人 | ④ 全く思わない…1人 |

①と②を合わせると8割の生徒が表現力の向上を実感したということになる。この結果は、ワークシートの記述内容や定期考査における記述問題の正答率にも表れていた。また、感想の中には、「普段の表現にも気を使うようになった」という記述がいくつか見られた。

## 3 成果と課題

### (1) 成果

授業において、個人思考 → 表現 → 協議 → 比較 → 反省というサイクルを繰り返すことにより、生徒により良い表現をしようとする意識が芽生えた。わかりやすく表現することの重要性に気づき、わかりやすく表現するために自己の表現を客観的に添削できようになった。また、添削方法を教えることで、生徒同士でも表現について指摘し合うようになり、それが読解力の向上にもつながっている。（細かい表現の違いに気づくようになったため）また、定期考査の記述問題に答える生徒が増え、その正答率も向上した。そして何より、楽しそうに授業を受けている。

### (2) 課題

グループワークでは、どうしても各班で取り組みの姿勢や時間、理解度に差が生まれてしまった。なかなか話し合いが進まないグループや課題が終わったグループに対する指示や助言が難しく、授業が計画通りに進まないことが多々あった。また、評価の方法に

についても検討の余地があり、改善点を挙げればきりが無い。

## おわりに

本校生徒の表現力は総じて低い。日常会話においては問題ないかもしれないが、社会に出てから困ることになるだろう。自分の表現を見つめ直すことで表現力を向上させようと思い、このような実践を行った。授業において、表現 → 比較 → 反省を繰り返すことで、生徒は良い表現に必要な要素に気づき、自ら添削できるようになった。また、生徒同士で表現について指摘し合う様子も見られるようになった。その様子はとても楽しそうで、前向きに授業に取り組んでいると感じた。そういった雰囲気をつくることができたことも一つの成果だと言える。

しかし、課題も残った。グループワークや評価の方法にはまだまだ改善の余地がある。また、今回は「表現力」に的を絞ったが、同時に「読解力」も向上したかと言えば疑問が残る。ただ書かせるのではなく、生徒の読みが深まるような問いを設定することが重要だと感じた。

生徒が自らの表現を見直したように、自分も教員として今回の授業実践を見つめ直し、さらなる改善を加えて、より良い授業を作っていく所存である。

**参考書籍** ・西川純編／今井清光・沖奈保子著

「すぐ実践できる！アクティブ・ラーニング高校国語」(2017.5)